



パラオ通信

No. 18 /2/14/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

みなさん、こんにちは。昨年の7月まで発刊していた「パラオ通信」を再開します。パラオでの生活情報や JICA 隊員たちの活動、私の仕事を中心にお伝えします。今回からは数学教育に関する話題も入れていきます。専門的な話も入りますが、よろしくお願ひします。今回のテーマは「パラオの教育制度と学校」です。

パラオはアメリカの教育制度とほぼ同じです。

パラオは小学校の8年間と高等学校の4年間が義務教育です。年齢でいうと6歳から18歳です。高校入試はありませんが落第の制度があります。それは1年に4回ある期末テストや日ごろの成績を基に実施されます。日本と違って落第する生徒がいるのには驚きます。またほとんどの子どもが幼稚園や、ヘッド・スタート・プログラムという支援施設に通います。そこでパラオ語や数学の勉強をします。

高校生は卒業するとアメリカやグアム、ハワイなどの大学に進学するか就職をします。パラオにはコミュニティ・カレッジという2年制の短期大学あります。そこを卒業してから就職や大学に進学する学生もいます。このように教育制度はしっかりとしています。

パラオ高校の校長先生の話では、日本の大学に進学する学生はほとんどいないそうです。日本語の読み書きが難しいからです。大学を卒業したらそのままアメリカやグアム、ハワイなどで就職してしまう学生が多くいます。パラオには大きな会社や企業がないからです。有能な人材の海外流出がパラオの課題になっています。

パラオには私立の小学校や高等学校もあります。私立の学校も公立とほぼ同じ教育内容です。公立の小学校はパラオ語が必修で、しかも相当に高いレベルになっています。だから日本人の多くは私立の小学校に通います。公立の小学校や高等学校は、授業料が無料です。私立は有料ですが、教育省が補助金を交付しているので安くなっています。塾や予備校もなく、一般家庭での教育費は日本に比べるとかなり低いのが特徴です。



コロール小学校(数学)



パラオ高校(数学：代数学)

パラオの学校は教科の学習が中心です。

公立小学校は7教科（パラオ語、英語、数学、理科、社会、体育、保健）が必修です。日本と違って、8月上旬に新学期が始まり5月末に終了します。夏休みは2か月余りですが、サマースクールに通う子供たちもいます。昨年私はそこで数学の授業を手伝いました。私立の小学生たちも来ます。小学生といっても8年生の生徒まで来ます。7年生や8年生の数学は中学1年から高校1年までに相当するので、かなり高いレベルまで教えます。

パラオの学校は日本ほど学校行事がなくて、7教科の授業が中心です。学校によって少し違いますが、これが小学校の時間割です。英語と数学は特別枠で補充授業が行われます。放課後にまた補習授業をする学校もあります。遠足やスポーツ大会、学習発表会などは3月のアウェアネス・ウィークに集中して行います。「パラオ通信6」でその様子を紹介しましたが、大きなイベント週間になっています。そのときに私たちは各学校を巡回します。



Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
8:00-8:45	English	English	English	English	English
8:45-9:30	Math	Math	Math	Math	Math
9:30-9:45	B	R	E	A	K
9:45-10:30	Palauan	Palauan	P.E.	Palauan	Math
10:30-11:15	Social	Social	Palauan	Social	Math
11:15-12:15	U	N	C	H	
12:15-1:00	Career Guidance	Health	Health	Health	Social
1:00-1:45	Science	Science	Science	Science	Science
1:45-2:30	Study Hour	Study Hour	Social	Social	Palauan

Clean Up Schedule 4th B

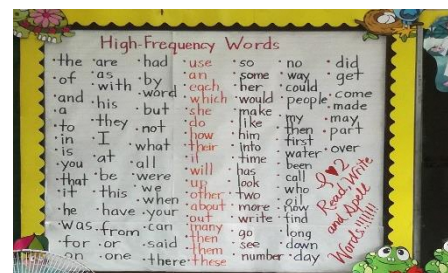


小学1年 数学（数の概念）



小学4年 英語（生活で使う英語）

授業は全て英語で行われます。だから英語で書かれている教科書や参考書が読めるように、どの学校も英語の指導に力を入れています。右は小学校4年で学習する英単語の教室掲示です。だいたい日本の中学3年生レベルでしょうか。数学の教科書を見ると、小学校の3年から説明文や文章題が多くなります。パラオの学校では英語が必修です。



High-Frequency Words									
the	are	had	use	so	no	did			
of	as	by	an	some	way	get			
and	with	word	each	her	could	made			
a	his	but	which	would	people	come			
to	they	not	do	like	my	may			
in	I	how	him	then	part				
is	at	what	their	info	water	over			
you	be	all	it	time	been				
that	we	were	up	look	call				
it	this	we	other	two	all				
he	have	your	about	more	who				
was	from	can	out	write	find				
for	or	said	many	go	long				
on	one	there	these	number	day				

体育は子供たちに人気のある教科です。学校の施設の関係で多少は違いますが、バスケットボール、バレーボール、野球が中心で学校別の対抗試合もあります。野球は大人にも人気のスポーツで、ふつうは男女ミックスのチームです。ボールはテニスボール、バットは竹の棒、ベースはサンダルという簡単な場合が多いです。天然芝の広いグラウンドのある小学校では、金属バットやグローブ、ベースを使っています。それらは日本から寄付されたものです。JICA事務所の近くには、「アサヒ・キュウジョウ」という大きな野球場があります。



昼休みや放課後もバスケットボールや野球をします。バスケットコートはコンクリート，運動場は天然芝です。

サンダルがベースになっています。

パラオ小学校は、ほとんどが小規模です。

パラオには小学校と高等学校が20校近くあります。大きな小学校は公立で2つしかありません。大きいといっても各学年が2から3クラス，1クラスは20人ぐらいです。その他の小学校は各学年が1クラスずつです。しかも多くの学校が1クラス10人程度です。

バベルダオブ島や小さな島には，1クラスが2人とか3人の学校もあります。そのような学校では，2つの学年が合同で授業を受けます。パラオの最北端にあるカヤンゲル島(カヤンゲル環礁の中にある唯一の有人島)へ行ったときは，生徒が全部で5人でした。ここでは高学年の数学は校長先生が教えていました。完全な個別授業です。「学習環境はとても恵まれているなあ」という印象を受けました。その一方で，スポーツ大会や野球はどのようにやっているのか気になりました。



イボバン小学校(バベルダオブ島)
4年生 1人の教室



ガードマウ小学校(バベルダオブ島)
1年生 2人の教室



カヤンゲル島(カヤンゲル環礁)
コロールから船で約3時間かかります。



PJF 小学校(カヤンゲル島)
7年生 1人の教室

日本では先生が病気で長く休んだり途中退職したりすると、教育委員会が事前に登録してある候補者の中から選んで派遣します。パラオでは候補者がとても少ないので、校長先生が苦勞して探します。見つからなくて校長先生が教えることもあります。高学年の数学が教えられる先生はとくに足りません。そこで JICA の協力隊員が授業をしている小学校もあります。私も頼まれて、昨年の9月はミュージズ小学校の8年生を教えていました。



左の写真はイボバン小学校の7年生と8年生の授業です。7年生は4人で8年生は2人です。本来は同じ教室で一人の先生が数学を教えますが、JICAの海外協力隊員である山下さんが8年生を教えています。教室とホワイトボードを半分に分けて使っています。

右は私がミュージズ小学校で教えていたときの写真です。数学の先生が長期にわたって休んでいたため、校長先生に頼まれて教えていました。

今回はパラオの教育制度や小学校の規模について書きました。教育制度はしっかりしているけれど、運営には苦勞しているというのが私の印象です。次回は小学校の様子をお伝えします。お楽しみに。